



# ひと口赤ちゃんメモ

皆さんは、「喃語（なんご）」という  
ことばを聞いたことがありますか？

バー

プー

一般には、赤ちゃんのおしゃべりのことをひとくくに「喃語」と呼んで、母が 専門的には、喃語にもいくつかの段階があって、これから話せるようになる上では、大事な発達だといえることがわかってきます。

赤ちゃんのおしゃべりには、すぐ思いつくのが「バババ」や「マンマ」といふか？ 実は、これは喃語の中でもとても高度なもので、2歳後半にもうみ出てきません。では、それ以前の赤ちゃんのおしゃべりとはどのようなものなのでしょう？

まず、生まれた直後の赤ちゃんは、体全体に力を入れてのどからしぼりだすような声しか出せません。これは、赤ちゃんののどのつくりが、おとなと違って狭いからです。のどの奥が広がって、私たちおとながことばを話すときに出すような音声を出せるようになるのは3ヶ月ころ、といわれています。でも、これですぐ「マンマ」と言えるわけではありません。

いったん赤ちゃんがこのような「いい声」を出せるようになると、赤ちゃんは、声を出すのを楽しむように、ひとりであるときもいろいろな声を出して遊ぶようになります。これは、まるで赤ちゃんがひとりでお話しているようです。でも、この「声遊び」が本当の喃語と言えないのは、このとき赤ちゃんが出す声は、「バー」や「プー」のような単発のものだからです。

やがて、赤ちゃんは、音を繰り返し発声できるようになります。たとえば、「アーアーアー」のようにです。赤ちゃんにとっては、これは、大きな進歩です。ことばを話すために、私たちおとなは、ものすごい勢いで違う音をつなげて発声しているわけですから、ここまでくると赤ちゃんもだんだんお話を準備ができてきた感じがします。

でも、ちょっと待ってください。「アーアーアー」のように母音を繰り返して発声しているときの赤ちゃんは、発声しているときに一緒に手や足をばたばたさせていることが多いのです。私たちおとなもちょっとやってみればわかりますが、「アー」と声を出しながら体をゆすぶったら、「アーアーアー」になりますよね？ ですから、このときの赤ちゃんは、まだ口だけで音の出し方をうまく調節できないので、体全体をつかって、音の出し方を調節しているのです。

そして、やっとその次の段階になって「バババ」や「マンマン」など、「母音+子音」の繰り返しが発声できるようになります。これが専門的には本当の喃語です。このときの赤ちゃんはもう、「バーバー」と言いながら手足をばたばたさせたりはしていません！ ここまでくると赤ちゃんは、もう完全に口だけで音の出し方を調節できるようになっているからです。口だけで音の出し方を調節していろいろな音をつなげていくことができる、この本当の喃語こそは、ことばを話せるようになるための重要なステップなのです。

バババ

マンマ

いかがでしたか？ ニュースレターはこれからもお届けしていきます。  
どうぞ、次回のお便りをお楽しみに。